

こんにちは。そろそろ梅雨本番となってまいりましたが、外に出られないこんな時期だからこそ、読書には最適と言えるかもしれません。今月は雨の日にゆっくり読書をする、そんな時間にお勧めの1冊を紹介します。

『第九軍団のワシ』

ローズマリー・サトクリフ 作 猪熊 葉子 訳 岩波書店（岩波少年文庫）

882円 読物

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★☆☆ 中学生★★☆
高校★★★ 一般★★★

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

2千年前のイギリスはローマン・ブリテンと呼ばれ、ローマから来た人々と現地の氏族たちが共存する社会でした。もちろん歴史習慣の違う民族が共存する社会では争いも耐えられません。ローマ軍団の百人隊長マーカスは、軍人としての成功を夢見ていましたが、現地の氏族、ブリトン人との戦いで負傷しその夢が破れます。傷の療養のため、マーカスは叔父のアクイラのところに身を寄せ、そこで後に親友となる奴隷のエスカと出会います。マーカスには軍人としての成功とは別に、もうひとつ夢がありました。それは、マーカスの父とともに消えてしまった第九軍団とその象徴である<ワシ>を探すというものでした。マーカスが子どもの頃に、マーカスの父は第九軍団を率いて北へむかったまま行方不明となっていたのです。傷が癒えてきたマーカスは、エスカとともに<ワシ>を探す旅にでます。それは、氏族達の土地に踏み入るといった危険を意味していました。

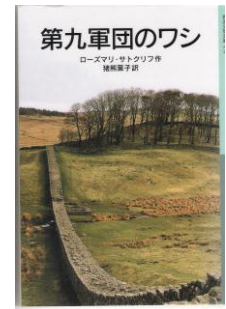
このお話に出てくる第九軍団の行方不明事件は本当に起こった出来事だそうです。そしてこのとき消えた<ワシ>がローマン・ブリテンの北ではなく、なぜか南で見つかったという不思議な史実をもとに作者はこの歴史物語を書き上げました。私たちになじみのないローマン・ブリテンの固有名詞や習慣など、少しわかりづらい箇所もありますが、物語全体として楽しめる本です。気に入った人は、昔のイギリスの事を調べてみるとこの物語の面白さが増すかもしれません。また、この本はシリーズになっていますので、ローマン・ブリテン四部作『銀の枝』『ともしびをかかげて』『辺境のオオカミ』も読んでみてください。

<子どもに手渡すときのポイント>

児童文学の中には何年経っても色あせない物語というものがあります。この『第九軍団のワシ』もそんな物語のひとつです。1950年代に書かれたシリーズであるにもかかわらず、50年を経た今でも私たちの心を震わせてくれる物語です。舞台がローマン・ブリテンということもあって、私たちに馴染みのない歴史、単語がならび、なか

なか子どもがちょっとみただけでは敬遠してしまう本ですが、物語の力は読み始めると子どもの心を離しません。読み応えのある本を求めている子どもにはぜひ挑戦してもらってみてください。今回、岩波少年文庫から『第九軍団のワシ』が新たに出版されています。子どもだけでなく大人の方々もぜひ一度手にとって物語の力を実感してみてください。

雨の日でも本の中でなら快晴の大草原に出かけることも可能です。
ゆっくりした読書の時間を楽しんでみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか